

<私の隣人>

ルカ10：30～37

【サマリタンズ・パース (サマリヤ人の財布)】
東日本大震災の際に、大きな輸送機に毛布・水
生活用品・食糧などを積み込みアメリカから
空輸し、誰よりも早く被災地の救援活動をした。



1、語った相手はどんな人か？

律法の専門家。

2、どんな状況で語られたか？

イエス様を試すために、永遠のいのちについて尋ねた人は、律法について立派に返答した。そこでイエス様は、それを実行したら永遠のいのちを得ると言われた。すると「私の隣人とは誰ですか」と自分の正しさを示そうと尋ね返された。この質問にイエス様はたとえを話された。

律法全体の中心「神を愛すること、隣人を愛すること」〈27節〉それを実行する。
そうすれば永遠のいのちを得る」

しかし、完全に守り行える人はいるだろうか・・・？

律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。 ローマ3：20

みことばは、私たちの内に隠れた思いを鋭く突く時がある。
みことばの戸が開くと、光が差し込み、わきまえない者に悟りを与えます。詩篇119：130

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。 ヘブル4：12

サムリヤ人が他の二人と違っていた点は何だろうか・・・？

駆けつけた / 痛みを共感した / 倒れている人を第一にした

「私の隣人とは誰？」という問いかけは、愛する対象となる範囲を問うこと。

- ◆ ユダヤ人にとっての隣人は、同じ信仰を持っていた同胞と理解され、隣人の範囲を限定する考え方があった。しかしイエスは、それを打ち壊すかのように、隣人とは誰かを示された。
- ◆ 隣人とは、誰かと捜すものではなくて「なる」もの。良きサムリヤ人は犠牲をいとわない献身によって、強盗にあった人の隣人になった。
- ◆ イエス様こそが私たちの隣人になられた！
自分に従う者だけでなく、敵対するすべての者の罪も身に引き受けて、十字架上でいのちを差し出して、救いの道を拓かれた。